

科目名	初等国語（含書写）		担当教員	神永 裕昭	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE101
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師）				
実務経験を生かした授業内容	国語教科書における「言葉の特徴や使い方」に関わる部分や事項を取り上げつつ講義する。（第1～13回）書写の指導のポイントを押さえる。（第14、15回）				
到達目標及びテーマ	1国語教育と国語科教育の相違を理解し、国語科教育の目標を把握する。2漢字の成り立ちを理解し、指導上の留意点を考える。3日本語の音声の特徴を理解し、音読の留意点を考える。4日本語の語種の違い・語構成を理解する。5日本語の敬語体系、共通語と方言の特徴を理解する。6学校文法における品詞の動きを把握し、文の構造を理解する。7硬筆による平仮名、毛筆による平仮名・漢字の特徴と基本を理解する。				
授業の概要	言語形成期にある児童にとって、言葉を獲得し、言葉による理解・表現は大切な活動であり、この期の言語教育は極めて重要である。初等国語では小学校学習指導要領国語の目標及び内容に鑑み、教科指導に必要な専門的基礎知識、音声・語彙・漢字・文法等の国語の知識を正確に学習し、「話す、聞く、書く、読む」領域とのかかわりを考えながら、教育に必要な言語事項の理解を深める。さらに、恒常的な図書館の利用、読書と書物の紹介という活動を通して自己の言語生活を一層豊かなものにする。書写では、書写への理解を深め、教師自身に求められる書写能力を身に付ける。				

授業計画	
第1回	授業についての説明を聞き、提出物の内容と提出時期をつかむ。日本語の特質を理解する。（第1～13回担当：神永）
第2回	国語教育と国語科教育、国語科教育の目標（国語科の総目標、学年の目標）を理解する。
第3回	「書くこと」の基礎として、漢字の成り立ち・部首、漢字辞典の特徴について理解する。
第4回	「書くこと」の基礎として、漢字の音訓の由来を理解し、多数の音訓を持つ漢字に留意する。
第5回	「書くこと」の基礎として、漢字の筆順の原則を成立の背景とともに理解し、国語の教科書に載る筆順で指導できるようにする。
第6回	「話すこと・聞くこと」、声に出して「読むこと」の基礎として、発音・発声・話し方について理解する。
第7回	「話すこと・聞くこと」、声に出して「読むこと」の基礎として、範読・音読・朗読について理解し、声に出すことの効果をつかむ。
第8回	和語・漢語・外来語等の性質や、語構成について理解し、判別できるようになる。
第9回	語の意味を、対義語・類義語の観点で理解し、慣用表現を生活の中の言葉として使えるようになる。
第10回	共通語の特徴、方言の成立のしかたと特徴を理解する。方言を収集し、対応する共通語を考えてみる。
第11回	学校文法の品詞の種類・動きと、文の構造について理解する。
第12回	敬語の五分類（尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語）を理解し、判別できるようになる。
第13回	授業を振り返り、まとめる（1～12回）。
第14回	書写 第1回 硬筆による平仮名の特徴と基本 第2回 硬筆による漢字の特徴と基本（担当：内田富美絵）
第15回	書写 第3回 毛筆による平仮名の特徴と基本 第4回 毛筆による漢字の特徴と基本（担当：内田富美絵）

事前学修	2時間	シラバスで授業範囲を確認し、毎回「学習指導要領」の該当部分を読み、整理しておく。範囲の漢字の筆順を身につけておく。
事後学修	2時間	授業の内容を整理する。気づいたことを記録し、課題に取り組む予定を立てる。
フィードバックの方法	よくできた新聞を学生に示し、コメントを述べる。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	50%	教科指導に必要な専門的基礎知識を正確に学習したか試す問題を出す。

レポート	30%	図書館を利用した読書と書物の紹介等を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	書写における提出物・授業への参加度を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編	文部科学省	東洋館出版社	978-4-491-03642-1	2018年 ¥162+
参考資料	「幼稚園教育要領」			

科目名	初等国語（含書写）		担当教員	今井 亨	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE101
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師）				
実務経験を生かした授業内容	国語教科書における「言葉の特徴や使い方」に関わる部分や事項を取り上げつつ講義する。（第1～13回）書写の指導のポイントを押さえる。（第14、15回）				
到達目標及びテーマ	1国語教育と国語科教育の相違を理解し、国語科教育の目標を把握する。2漢字の成り立ちを理解し、指導上の留意点を考える。3日本語の音声の特徴を理解し、音読の留意点を考える。4日本語の語種の違い・語構成を理解する。5日本語の敬語体系、共通語と方言の特徴を理解する。6学校文法における品詞の動きを把握し、文の構造を理解する。7硬筆による平仮名、毛筆による平仮名・漢字の特徴と基本を理解する。				
授業の概要	言語形成期にある児童にとって、言葉を獲得し、言葉による理解・表現は大切な活動であり、この期の言語教育は極めて重要である。初等国語では小学校学習指導要領国語の目標及び内容に鑑み、教科指導に必要な専門的基礎知識、音声・語彙・漢字・文法等の国語の知識を正確に学習し、「話す、聞く、書く、読む」領域とのかかわりを考えながら、教育に必要な言語事項の理解を深める。さらに、恒常的な図書館の利用、読書と書物の紹介という活動を通して自己の言語生活を一層豊かなものにする。書写では、書写への理解を深め、教師自身に求められる書写能力を身に付ける。				

授業計画	
第1回	授業についての説明を聞き、提出物の内容と提出時期をつかむ。日本語の特質を理解する。（第1～13回担当：今井）
第2回	国語教育と国語科教育、国語科教育の目標（国語科の総目標、学年の目標）を理解する。
第3回	「書くこと」の基礎として、漢字の成り立ち・部首、漢字辞典の特徴について理解する。
第4回	「書くこと」の基礎として、漢字の音訓の由来を理解し、多数の音訓を持つ漢字に留意する。
第5回	「書くこと」の基礎として、漢字の筆順の原則を成立の背景とともに理解し、国語の教科書に載る筆順で指導できるようにする。
第6回	「話すこと・聞くこと」、声に出して「読むこと」の基礎として、発音・発声・話し方について理解する。
第7回	「話すこと・聞くこと」、声に出して「読むこと」の基礎として、範読・音読・朗読について理解し、声に出すことの効果をつかむ。
第8回	和語・漢語・外来語等の性質や、語構成について理解し、判別できるようになる。
第9回	語の意味を、対義語・類義語の観点で理解し、慣用表現を生活の中の言葉として使えるようになる。
第10回	共通語の特徴、方言の成立のしかたと特徴を理解する。方言を収集し、対応する共通語を考えてみる。
第11回	学校文法の品詞の種類・動きと、文の構造について理解する。
第12回	敬語の五分類（尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語）を理解し、判別できるようになる。
第13回	授業を振り返り、まとめる（1～12回）。
第14回	書写 第1回 硬筆による平仮名の特徴と基本 第2回 硬筆による漢字の特徴と基本（担当：内田富美絵）
第15回	書写 第3回 毛筆による平仮名の特徴と基本 第4回 毛筆による漢字の特徴と基本（担当：内田富美絵）

事前学修	2時間	シラバスで授業範囲を確認し、毎回「学習指導要領」の該当部分を読み、整理しておく。範囲の漢字の筆順を身につけておく。
事後学修	2時間	授業の内容を整理する。気づいたことを記録し、課題に取り組む予定を立てる。
フィードバックの方法	よくできた新聞を学生に示し、コメントを述べる。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	50%	教科指導に必要な専門的基礎知識を正確に学習したか試す問題を出す。

レポート	30%	図書館を利用した読書と書物の紹介等を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	書写における提出物・授業への参加度を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編	文部科学省	東洋館出版社	978-4-491-03642-1	2018年 ¥162+
参考資料	「幼稚園教育要領」			